

第44回

日本精神科看護学術集会 プログラム・抄録集

CONTENTS

ご挨拶	2
学術集会主題	3
参加者の皆様へ	4
プログラム	8
会場・周辺案内図	13
各種企画	16
看護研究発表抄録(研究助成論文・推薦演題)	33
一般演題A抄録(実践報告・業務改善報告)	313
一般演題B抄録(ワークショップ・交流セミナー)	355

ご挨拶

ナーシング・マインド

開催の
ご挨拶

一人と人のつながりを大切にする学術集会

一般社団法人日本精神科看護協会 会長 **末安 民生**

第44回日本精神科看護学術集会を13年ぶりに再び長崎の地において開催することができますことを、その準備を担っている長崎県支部の皆さんに会員を代表して深く感謝いたします。同時に、再び長崎で全国の皆さんとお会いできますことがとてもうれしく、期待に胸を膨らませています。

すでに参加されたことのある会員の皆さんにはおわかりいただけていることと思いますが、日精看の学術集会は、精神科看護を主題としてうたっています。しかし、精神科病院における看護の充実や地域生活支援のための資質と技量の向上をめざして、研究をもち寄って研鑽するためだけに開催しているのではありません。

前回の長崎大会では、「精神科看護の展望—制度改革と看護者の役割—」を学術集会主題として、1995年から続いていた精神保健福祉法の改正が臨床に与える影響や、2003年に成立した医療観察法の施行に伴う体制整備と看護のあり方、2005年成立の障害者自立支援法と精神保健福祉法の在宅支援活動との関係性を見定めていくために、制度変革期に対応した方向性についての議論をしました。

これら学術集会における行政報告や教育セミナー、管理者セミナー、特別企画、支部企画などを通しての参加者との交流や意見交換は、その後の日精看の活動を支える大きな柱の1つとなっています。そして、研究発表、実践報告、業務改善報告などが縦横無尽に交差することによって知識に偏らない実践知の宝庫としての学術集会となっています。このように、皆さんの日々の実践の積み重ねと日精看の活動が1つになって精神科医療をより充実させていくことが、看護者の地位向上にもつながっています。

皆さんに学術集会に参加していただくことは、日精看の活動を通して個々が成長するだけでなく、社会全体にメッセージを発信していくことにもなります。日精看は、今後もこのような探求心をもって学術集会を企画していきたいと思います。会員の皆さんも自分が大切にしているナーシング・マインドを学術集会で発揮していただきますよう、お願いいたします。

学術集会主題

学術集会
主題

精神科看護の継承と発展

近年、医療の現場では急性期医療の促進に伴う効率化が求められ、医療や看護の標準化が図られている。また、医療安全の重要性も高まり、医療事故防止のための準備や確認などの作業にかかる時間が日常業務の中で増えている。その傾向は精神科医療においても同様である。

日本精神科看護協会では、精神科看護を「精神的健康について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自律性の回復を通して、その人らしい生活ができるよう支援することである」と定義している。つまり、精神科看護においては「その人らしい生活」の実現を目標にしており、個別性を大切にしてきた。「その人らしい生活」を実現するためには、患者理解を深めることが必要である。そこで、精神科看護者は1人1人の患者に個別にかかわることを看護の中心に据えてきた。しかし、医療現場では日常業務が煩雑になり、患者の個別性を重視してかわる時間を確保することが難しくなっている。

振り返れば、日本精神科看護協会は昭和22年に全日本看護人協会として結成されて以降、精神科看護者の看護実践を発表する場を作ってきた。そこで発表される実践は、それぞれの時代において患者の回復と「その人らしい生活」をめざしたかわりであり、多くの示唆に富む実践知であった。全国から集まった仲間たちの精神科看護の実践からヒントを得て、新たな精神科看護に取り組む看護者たちのつながりは今も続いている。

このように、先輩たちによる実践の歴史を振り返り、精神科看護における気づきを仲間と共有することで、精神科看護者は患者とのかかわりの意味を見出すことができる。それらは実践知となり、これからも次の時代に継承していくべきものである。

今後は、これまで継承されてきた精神科看護を発展させていかなければならない。時代とともに注目を集める新しい精神科看護の視点や技術も、これまで培われてきた患者理解や患者—看護者関係を発展させたものとして学び、精神科看護の専門性のさらなる向上に努める必要がある。また、精神科医療の現場で実践されている治療や看護が国民に見えるようにすることで精神科医療に対する国民の関心も高まり、精神疾患を身近なものとしてとらえるようになり、それが精神科医療の理解と評価につながり、さらに質を高めることになる。あわせて私たちは、わが国が抱えてきた精神障がい者に対する偏見の解消をめざして、精神科看護者だからこそできる活動を受け継ぎ、発展させていくことが必要である。

これまで継承し積み重ねられた精神科看護の知恵を、今後どのように発展させていくことが社会への貢献になるのかを、皆さんと一緒に考えたい。

参加者の皆様へ

1. ネームプレート着用について
 - ・資料袋の中にあるネームプレートに「名札」をさし込み、会期中は必ず着用してください。
 - ・名札の裏面を「割引対応施設」で提示いただくと、会期中から会期後の **6月24日**（月）まで割引額で利用できます。割引対応施設および割引額は、資料袋の中の「割引対応施設一覧」をご参照ください。
 - ・当日受付の方は名札に各自で支部、施設名、氏名をご記入のうえ、着用してください。
 - ・館内への入場は名札の着用によって自由にできます。名札を着用していない方の入場はお断りいたします。
 - ・名札に赤線が入ったものは協会関係者、青線は長崎県支部運営委員です。ご用の際はお申しつけください。
2. 受付について
 - ・長崎ブリックホール **1F** エントランスホールで **6月21日(金)9時00分**、**6月22日(土)・6月23日(日)8時45分** から行います。
 - ・受付では、参加券と引き換えに資料袋をお渡ししますので、参加券を忘れずにご持参ください。
 - ・モーニングセッションから参加される方は、モーニングセッション終了後に受付をしてください。
3. 開演中の呼び出しはいたしません。総合案内（受付）にホワイトボードを設置しておりますのでご確認ください。
4. 開演中はスマートフォン・携帯電話・PHSなどの電源を切るか、マナーモードの設定にご協力ください。
5. 看護研究発表（推薦演題）および一般演題 **A** について
 - ・発表中の録音、写真撮影は固くお断りいたします。
 - ・各会場で発表者に質問をされる方は、あらかじめマイクの近くにおいでください。
 - ・示説発表の会場で、「撮影禁止」の表示があるポスターは、写真撮影をご遠慮ください。
6. 一般演題 **B** は入場制限を行うことがありますので、あらかじめご了承ください。
7. 大きな荷物をお持ちの方はクロークをご利用ください。利用時間はプログラム終了 **15分** 後までです。
 - ・ **6月21日**： **9時00分** から **18時30分** まで
 - ・ **6月22日**： **8時45分** から **17時15分** まで
 - ・ **6月23日**： **8時45分** から **12時45分** まで
8. 昼食について
 - ・弁当を予約している方は、昼食券と引き換えにお受け取りください。
 - ・弁当の引き換えは、長崎ブリックホール **1F** エントランスホールで東武トップツアーズが行います。時間は **11時30分～13時30分** までとし、それ以後は無効となります。
 - ・昼食は、第 **1** 会場～第 **4** 会場、第 **7** 会場～第 **10** 会場でお召しあがりいただけます。
 - ・ランチョンセミナーでの弁当の配布はありません。
9. 弁当、お茶ケースなどは所定の場所にお捨てください。その他のゴミは各自でお持ち帰りください。
10. 入会手続きをご希望の方は総合案内の「入会デスク」にお越しください。
11. 喫煙は所定の「喫煙コーナー」をご利用ください。
12. 宿泊、JR、航空券案内は東武トップツアーズ案内にご相談ください。
13. 急病の方は総合案内へご相談ください。

14. 非常の際は、係員の指示に従ってください。
15. 会場およびその周辺でのビラなどの配布は固くお断りいたします。
 - ＊今回の学会の看護研究発表（推薦演題）の論文は協会ホームページから会員登録により、無料でダウンロードできます（**6月20日** より）。
 - ＊本プログラム・抄録集の当日配布はありません。必要に応じてご持参ください。



看護研究発表(口頭)・一般演題Aの発表者の方へ

1. 発表者の方は、発表者受付で参加券と引き換えに資料袋をお受け取りください。
2. 発表当日の資料配布はできません。
3. 発表の流れや機材操作については下記のとおりです。
 - 1) 発表の流れについて
 - ①発表当日は、発表する群が始まる **20分** 前(**22日**、**23日**の最初の群は **8時45分**)に次演者控室(**P.14～15** 参照)に集合してください。座長と打ち合わせを行います。
 - ②発表時間は **1** 席につき **6分** です。発表時間は発声の第一声から計測します。
 - ③発表の冒頭で、テーマ、支部名、施設名、発表者氏名を述べてください。
 - ④ベルの合図は下記のとおりです。
 - ・ **5分**……**1** 回ベル
 - ・ **6分**……**2** 回ベル
 - ・ **6分** を過ぎると、発表を打ち切ることがあります。また、応募内容と発表内容が著しく違うと認められた場合、座長の判断で発表を止めることがあります。
 - ⑤発表終了後は、引き続き **4分** 程度の質疑応答時間となります。
 - ・ 質問者の主旨をよく聴き、質問内容についてのみ答えてください。
 - ・ 発表終了後の質問コーナーは設置いたしません。
 - ・ 質疑応答が終了後、座長の指示に従って席へお戻りください。
- 2) 機材操作について
 - ①当日の機材操作は、発表者自身が演台上で操作してください。ただし、共同研究者に委託することも可能です。レーザーポインターは、演台上に準備してありますのでご使用ください。
 - ②パワーポイントの試写の時間は設けておりません。また、データの差し替えはできません。



看護研究発表(示説)の発表者の方へ

1. 発表者の方は、発表者受付で参加券と引き換えに資料袋をお受け取りください。
2. 発表当日の資料配布はできません。
3. ポスターの掲示と撤去について
 - 1) **1** 席分の展示スペースは、縦 **180 cm** × 横 **90cm** の **タテ長** (**P.6** 図参照)のパネルを使用しております。ポスターは展示パネルからはみ出さないように貼ってください。
 - 2) 演題名・支部名・所属・発表者名はご自分でご用意いただき、展示スペース内に掲示してください。

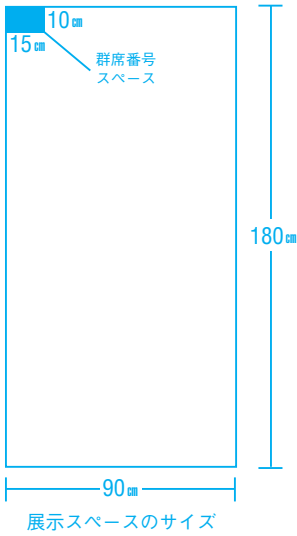
- 3) 展示パネルの左上横 **15 cm** × 縦 **10cm** には、群席番号が貼ってあります。ポスターは群席番号のスペースを避けて掲示してください。押しピンは協会でご用意いたします。
- 4) ポスターは、文章・図表・写真など種類を問わず掲示できますが、「研究目的」「結論」「倫理的配慮」「利益相反」は、必ず掲示してください。
- 5) 写真を掲示する場合は、必ず倫理的配慮をしてください。また、許可を得たことを明記してください。なお、発表に関係ない写真などは掲載しないようにしてください。
- 6) ポスターの掲示と撤去は下記の時間内に各自で行ってください。協会事務局で掲示の代行はいたしません。

掲示日時	撤去時間
6月21日(金) 12:00～13:30	6月23日(日) 11:10～12:20

- 7) 時間内に掲示されていない場合、発表を辞退したとみなしますので、くれぐれもご注意ください。
- 8) ポスター掲示直後に、会場担当者が掲示内容の確認を行いますので、その場を離れる前に必ず会場担当者に声をかけてください（確認ができない場合は、発表ができなくなることがありますのでご注意ください）。
- 9) 指定の時間内に撤去できない場合は、掲示を行う時に会場担当者にお申し出ください。ポスターの返送を会場担当者に依頼される場合は、ポスターが入るサイズの封筒に宛名、宛先を記入したクロネコヤマトの着払伝票を貼ったものを準備し、会場担当者にお預けください。
- 10) ポスターの返送のお申し出がない場合、撤去時間が過ぎた時点で処分いたします。

4. 発表の流れについて

- 1) 発表当日は、発表する群が始まる **20 分前（22 日, 23 日の最初の群は 8 時 45 分）に次演者控室（P.14 ～ 15 参照）**に集合してください。座長と打ち合わせを行います。
- 2) 発表はご自身のポスター前で群席の順に発表します。
- 3) 発表時間は、**1 席につき 3 分**です。発表時間は発声の第一声から計測します。
- 4) 発表の冒頭で、テーマ、支部名、施設名、発表者氏名を述べてください。
- 5) **3 分**を過ぎるとアラームが鳴ります。
- ・**3 分**を過ぎると発表を打ち切ることがあります。また、応募内容と発表内容が著しく違うと認められた場合、座長の判断で発表を止めることがあります。
- 6) 質疑応答が終了後、次の発表となりますが、そのままポスターの前で待機してください。
- 7) 発表群全員の発表終了後から発表群の終了時間まで全体でのフリーディスカッションとなります。直接、参加者と質疑応答をしていただきます。



看護研究発表・一般演題 A の座長の方へ

1. 会場に到着されましたら、「一般受付」で受付をお済ませください。
2. 担当いただく群が始まる **20 分前（22 日, 23 日の最初の群は 8 時 45 分）に次演者控室（P.14 ～ 15 参照）**で発表者の方と打ち合わせをしてください。
3. 進行にあたっては、別送の「実施要項」を参考にしてください。
4. 発表時間と質疑の時間を管理し、必ず群の時間内に終わるように進行してください。

	発表時間	質疑の時間
口頭発表の場合	6 分	4 分程度
示説発表の場合	3 分	適宜

5. フロアから質問が出やすいように声をかけて、会場内をよく見て質問を促してください。



一般演題 B の企画者の方へ

1. 一般の参加者と同様に受付をお済ませください。
2. 発表当日は、発表が始まる **60 分前（22 日, 23 日の最初の群は 8 時 45 分）より次演者控室（P.14 ～ 15 参照）**を利用できます。発表会場へは、発表の **10 分前**にお越しください。
3. 配布資料やアンケートなどがある場合は、必ず事前にご準備ください。当日不足がある場合でも対応はいたしかねます。配布や回収につきましても企画者にて行ってください。
4. 発表時間は定められた時間を厳守してください。発表後は次の発表者の準備がありますので、速やかに撤収してください。
5. 会場内の機材や物品については、パソコン・プロジェクター・ホワイトボードを備えてあります。
 - ・ご自身のパソコンを使用いただくことも可能ですが、専用のケーブルやアダプターをご準備ください。また、プロジェクターとの接続不具合などにつきましては保障できません。
 - ・プレゼンテーションデータの試写時間は設けておりませんのでご了承ください。
 - ・パソコンから音声や動画の出力の設備はありません。
6. 会場内のレイアウトを変更する場合は、会場担当者にお声かけください。レイアウトの変更および原状復帰は企画者にて時間内に行ってください。
7. 会場内での書籍の販売などはご遠慮ください。

プログラム

6月21日 金曜日

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
B 長崎ブリックホール	2F 大ホール	9:20 オリエン テーション 9:30-11:00 基調講演 講師 末安 民生・吉川 隆博 教育セミナー 行政報告 精神科看護の継承と発展 P16			11:10-11:50 式典		13:10-14:10 特別講演 講師 高田 明 夢持ち続け日々精進 P20		14:20-15:20 教育セミナー① 東日本大震災から8年目、 これからの課題 P21		15:30-16:30 行政報告 厚生労働省社会・援護局障害保健 福祉部 精神・障害保健課 P28	
	3F 国際会議場	第2会場 特別企画 ランチョンセミナー 定時総会			12:00-13:00 ランチョン セミナー① 大塚製薬株式会社 P30		14:20-15:40 特別企画① 精神科看護師に特定行為は必要か？ ―変化する社会に対応するために P26		16:45-18:15 定時総会			
	3F 会議室1・2	第3会場 一般演題B					14:20-15:20 一般演題B① 本日OPEN りえぞんCafe P359		15:30-16:30 一般演題B③ 事例検討に活かすリフレクティ ング・プロセス入門編 in 長崎 P360			
	3F 会議室4・5	第4会場 一般演題B					14:20-15:20 一般演題B② 私に、看護師、精神科ってむりか も。そんなお悩み軽くしていき ませんか P359		15:30-16:30 一般演題B④ 行動制限の メディカルモデル(医学的判断を重視・ パターナリズム)とリーガルモデル(適 正手続きを重視) P360			
	2F 練習室1・2	第5会場 看護研究発表 (示 説)			12:00-13:30 ポスター 掲示時間 ポスター掲示時間		14:20-15:20 看護研究発表 第1群 CVPPP 座長 賀山 道広 P034		15:30-16:30 看護研究発表 第7群 アドヒアランス 座長 山下 隆之 P36			
	2F リハーサル室	第6会場 看護研究発表 (示 説)					14:20-15:20 看護研究発表 第2群 身体合併症①・在宅医療 座長 齋藤 雄一 P34		15:30-16:30 看護研究発表 第8群 感染予防対策 座長 杉田 百合子 P36			
大ホール2F ホワイエ		学会カフェ			12:00-16:30 学会カフェ・企業ブース・作業所出展・認定相談ブース P32							
長崎新聞文化ホール アストピア	2F 翔鶴東の間	第7会場 看護研究発表 (口 頭)					14:20-15:20 看護研究発表 第3群 アディクション 座長 青柳 歌織 P34		15:30-16:30 看護研究発表 第9群 うつ病・双極性障害 座長 前田 友子 P36			
	2F 翔鶴西の間	第8会場 看護研究発表 (口 頭)					14:20-15:20 看護研究発表 第4群 医療安全・コスト削減 座長 浅川 佳則 P35		15:30-16:30 看護研究発表 第10群 家族支援 座長 藤井 陽子 P37			
	3F 真珠の間	第9会場 看護研究発表 (口 頭)					14:20-15:20 看護研究発表 第5群 陰性感情 座長 社本 昌美 P35		15:30-16:30 看護研究発表 第11群 看護管理 座長 小成 祐介 P37			
	3F 珊瑚の間	第10会場 看護研究発表 (口 頭)					14:20-15:20 看護研究発表 第6群 隔離① 座長 玉乃井 雅浩 P35		15:30-16:30 看護研究発表 第12群 隔離②・感情 座長 藪本 博之 P37			
	1F 画廊	アール・ブリュット展&アート写真展					12:30-16:30 アール・ブリュット展&アート写真展 P32					

受付の
ご案内

場所 B長崎ブリックホール 1Fエントランスホール

時間 9:00～16:30

弁当 受付で昼食券と引き換えます(11:30～13:30)
長崎新聞文化ホール アストピアでは弁当の引き換え
は行っていない。

各ページに記載されているマークは以下のとおりです。

- B 長崎ブリックホール
- 長崎新聞文化ホール アストピア

プログラム 6月22日 土曜日

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00						
長崎ブリックホール	2F 大ホール	第1会場 教育セミナー 映画 ランチョンセミナー 特別企画		9:00-10:00 教育セミナー② 組織として取り組む行動 制限最小化 P21		10:10-11:30 映画上映「オキナワへいこう」 監督 大西暢夫（舞台挨拶） P29		12:30-13:30 ランチョンセミナー② ニプロ株式会社 P30		13:40-14:40 教育セミナー③ 組織のストレスとコンサル テーション P22		14:50-17:00 特別企画② 公開講座 お父さんの気持ちを支える！ 児童虐待予防支援ツール「ハバカード」を活用しよう！ P27					
	3F 国際会議場	第2会場 看護研究発表 （口頭） ランチョンセミナー 支部企画 看護管理者セミナー		9:00-10:00 看護研究発表 第13群 患者・看護師関係 座長 塚谷 大輔 P38		10:10-11:10 看護研究発表 第18群 行動制限最小化 座長 大谷 須美子 P39		11:20-12:20 看護研究発表 第23群 教育・研修 座長 中本 健一郎 P41		12:30-13:30 ランチョンセミナー③ 株式会社医学書院 P31		13:40-14:40 看護研究発表 第28群 実習指導・人材育成 座長 福岡 竜太郎 P43		14:50-15:50 支部企画 リソースナースの組織的 取り組み P29		16:00-17:00 管理者セミナー 管理者だって言いたいことは 山ほどあるんだ！！ P28	
	3F 会議室1・2	第3会場 一般演題B		9:00-10:00 一般演題B⑤ うつ病の症状・ストレスへのコー ピングにひそむ嗜癖問題 P361		10:10-11:10 一般演題B⑧ 他科に誇れ る精神科の専門技術メンタルステ ータスイグザミネーションー精神 症状・心理的反応編ー P362		11:20-12:20 一般演題B⑪ 他科に誇れ る精神科の専門技術メンタルステ ータスイグザミネーションー ー薬物療法編ー P364				13:40-14:40 一般演題B⑭ 患者のリカバリーを引き 出すIMR P365		14:50-15:50 一般演題B⑰ 離島支援の 取り組みをヒントに！ 地域連 携の鍵を探してみませんか P367		16:00-17:00 一般演題B⑳ WRAP® が広がった今、《効果的な》 WRAP®クラスとは？ P368	
	3F 会議室4・5	第4会場 一般演題B		9:00-10:00 一般演題B⑥ 事例で実践！ リエゾン看護 P361		10:10-11:10 一般演題B⑨ イタリアの精 神医療・保健・福祉の現場を訪ねて 1 〜トリエステ・トレント・アレツツオ の取り組み〜 P363		11:20-12:20 一般演題B⑫ イタリアの精 神医療・保健・福祉の現場を訪ねて 2 〜私たちがめざすべき姿と取り入れたい こと〜 P364				13:40-14:40 一般演題B⑮ 精神看護学 実習における臨床実習指導者と 教員の連携を考える P366		14:50-15:50 一般演題B⑱ コミュニケー ションのためのアサーションスキル・ トレーニング 初級編 P367		16:00-17:00 一般演題B㉑ 精神科倫理・ 哲学サロンmini いまそこにある葛 藤、語り合うことからはじめようー P369	
	2F 練習室1・2	第5会場 看護研究発表 （示説）		9:00-10:00 看護研究発表 第14群 カンファレンス 座長 波田 実 P38		10:10-11:10 看護研究発表 第19群 急性期治療病棟 座長 増田 賢詞 P40		11:20-12:20 看護研究発表 第24群 発達障害 座長 山内 賢司 P41				13:40-14:40 看護研究発表 第29群 認知症ケア③ 座長 田岡 牧人 P43		14:50-15:50 看護研究発表 第33群 ストレングス② 座長 島津 聖子 P44		16:00-17:00 看護研究発表 第37群 チーム医療 座長 井上 賢一 P46	
	2F リハーサル室	第6会場 看護研究発表 （示説）		9:00-10:00 看護研究発表 第15群 衝動行為・対応困難 座長 斎藤 孝則 P38		10:10-11:10 看護研究発表 第20群 身体合併症②・終末期ケア 座長 松永 深雪 P40		11:20-12:20 看護研究発表 第25群 地域移行支援 座長 高田 久美 P42				13:40-14:40 看護研究発表 第30群 ストレス 座長 盛内 雅寛 P43		14:50-15:50 看護研究発表 第34群 退院支援① 座長 木戸 美由喜 P45		16:00-17:00 看護研究発表 第38群 服薬支援 座長 桑野 彩 P46	
大ホール2F ホワイエ		学会カフェ										9:00-17:00 学会カフェ・企業ブース・作業所出展・認定相談ブース P32					
長崎新聞文化ホール アストピア	2F 翔鶴東の間	第7会場 看護研究発表 （口頭）		9:00-10:00 看護研究発表 第16群 長期入院① 座長 山中 玲子 P39		10:10-11:10 看護研究発表 第21群 長期入院②・禁煙 座長 池田 秀幸 P40		11:20-12:20 看護研究発表 第26群 コミュニケーション 座長 梅崎 真功 P42				13:40-14:40 看護研究発表 第31群 身体拘束・鑑定入院 座長 福岡 透 P44		14:50-15:50 看護研究発表 第35群 行動変容 座長 内野 忠彦 P45		16:00-17:00 看護研究発表 第39群 退院支援② 座長 山本 真 P46	
	2F 翔鶴西の間	第8会場 看護研究発表 （口頭）		9:00-10:00 看護研究発表 第17群 認知症ケア① 座長 松尾 賢和 P39		10:10-11:10 看護研究発表 第22群 高齢者・知的障害 座長 小瀬古 伸幸 P41		11:20-12:20 看護研究発表 第27群 認知症ケア② 座長 木下 かおる P42				13:40-14:40 看護研究発表 第32群 ストレングス① 座長 鈴木 昌平 P44		14:50-15:50 看護研究発表 第36群 認知症ケア④ 座長 藤本 清司 P45		16:00-17:00 看護研究発表 第40群 レクリエーション・作業療法 座長 奥田 剛史 P46	
	3F 真珠の間	第9会場 一般演題B		9:00-10:00 一般演題B⑦ 急変って 大変！ だから急変を未然に防げ る精神科看護師になろう P362		10:10-11:10 一般演題B⑩ 「愛知から長崎へ」～精神 科の絆を繋ぐ～ P363		11:20-12:20 一般演題B⑬ 精神科薬 物療法看護あるある！ なん で伝わらんの？編 P365				13:40-14:40 一般演題B⑯ 認知症基 本的対応技術 Let'sカン フォータブルケア！ P366		14:50-15:50 一般演題B⑲ どうする？ どうしてる？ 精神科外来看護 P368		16:00-17:00 一般演題B㉒ 日精看長 崎県支部が主催する「看護研 究研修の効果と課題」 P369	
	3F 珊瑚の間	第10会場 一般演題A		9:00-10:00 一般演題A 第1群 医療安全・治療環境 座長 金子 亜矢子 P314		10:10-11:10 一般演題A 第2群 外来・退院支援 座長 松永 智香 P314		11:20-12:20 一般演題A 第3群 多職種連携 座長 小宮 敬子 P314				13:40-14:40 一般演題A 第4群 地域生活支援 座長 西岡 由江 P315		14:50-15:50 一般演題A 第5群 看護教育①・職場環境 座長 麻場 英聖 P315		16:00-17:00 一般演題A 第6群 看護教育② 座長 工藤 正志 P315	
	1F 画廊	アール・ブリュット展&アート写真展										9:00-17:00 アール・ブリュット展&アート写真展 P32					

受付のご案内
場所 長崎ブリックホール 1F
エントランスホール
時間 8:45～17:00
弁当 受付で昼食券と引き換えます
(11:30～13:30)

モーニングセッションのご案内
めざまし討論会 進行:末安民生・吉浜文洋
日時 6月22日(土)7:30～8:50
直接会場へお越しください(開場7:15)。
場所 第2会場

懇親会のご案内
全国よりご参加いただく皆様の交流の場として、懇親会を開催します。長崎県の食材をふんだんに
使用した料理を準備して皆様のお越しをお待ちしています。
日程 6月22日(土)18:00～(受付 17:45～18:00)
会場 ホテルニュー長崎3F 鳳凰閣 当日申込不可

周辺案内図

[illegible]

 JR長崎本線「浦上駅」より徒歩約5分。

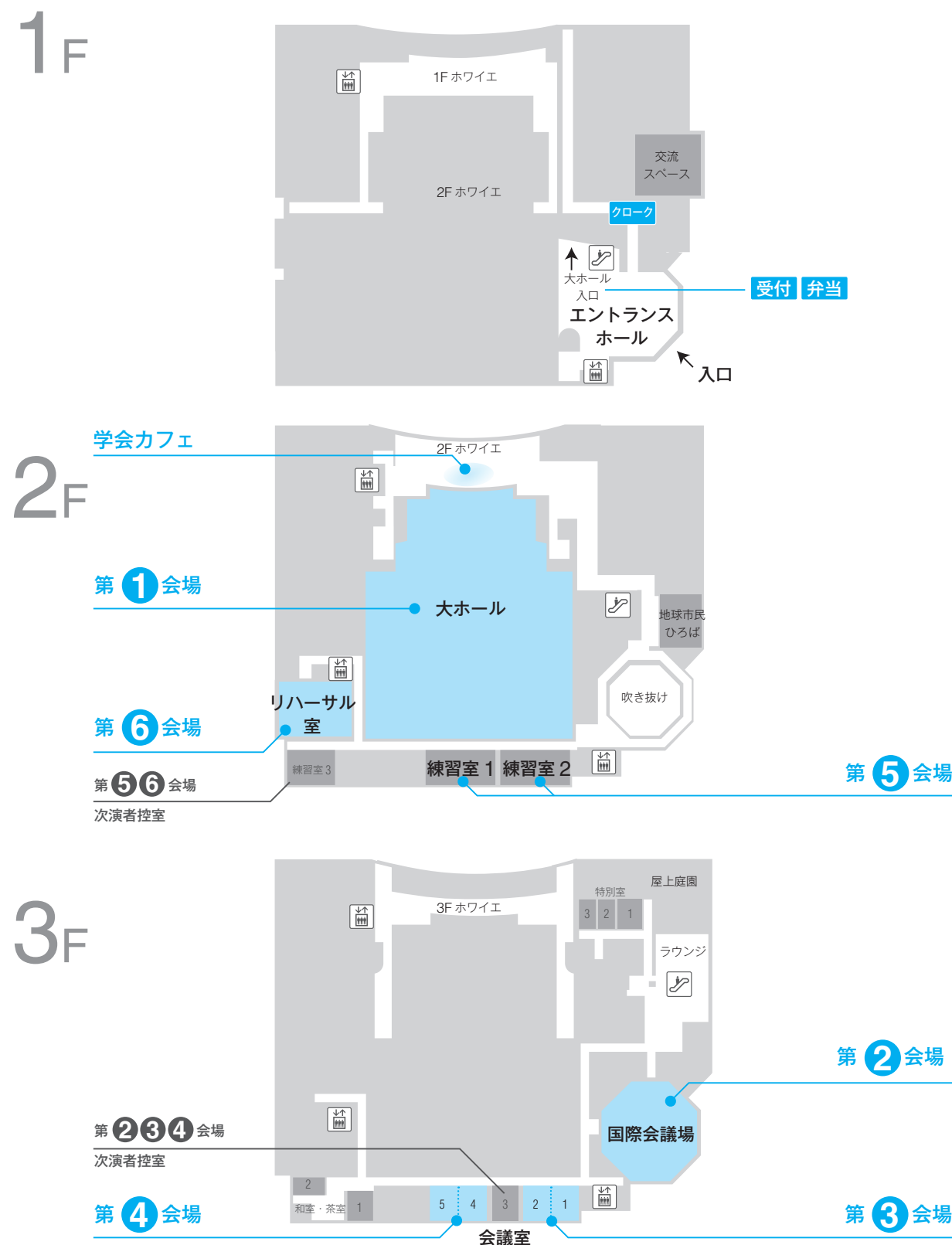
 長崎空港からはリムジンバスに約**50分**乗車。「茂里町」停留所下車。

※お車でお越しの方は駐車場を各自で確保してください。

会場案内図

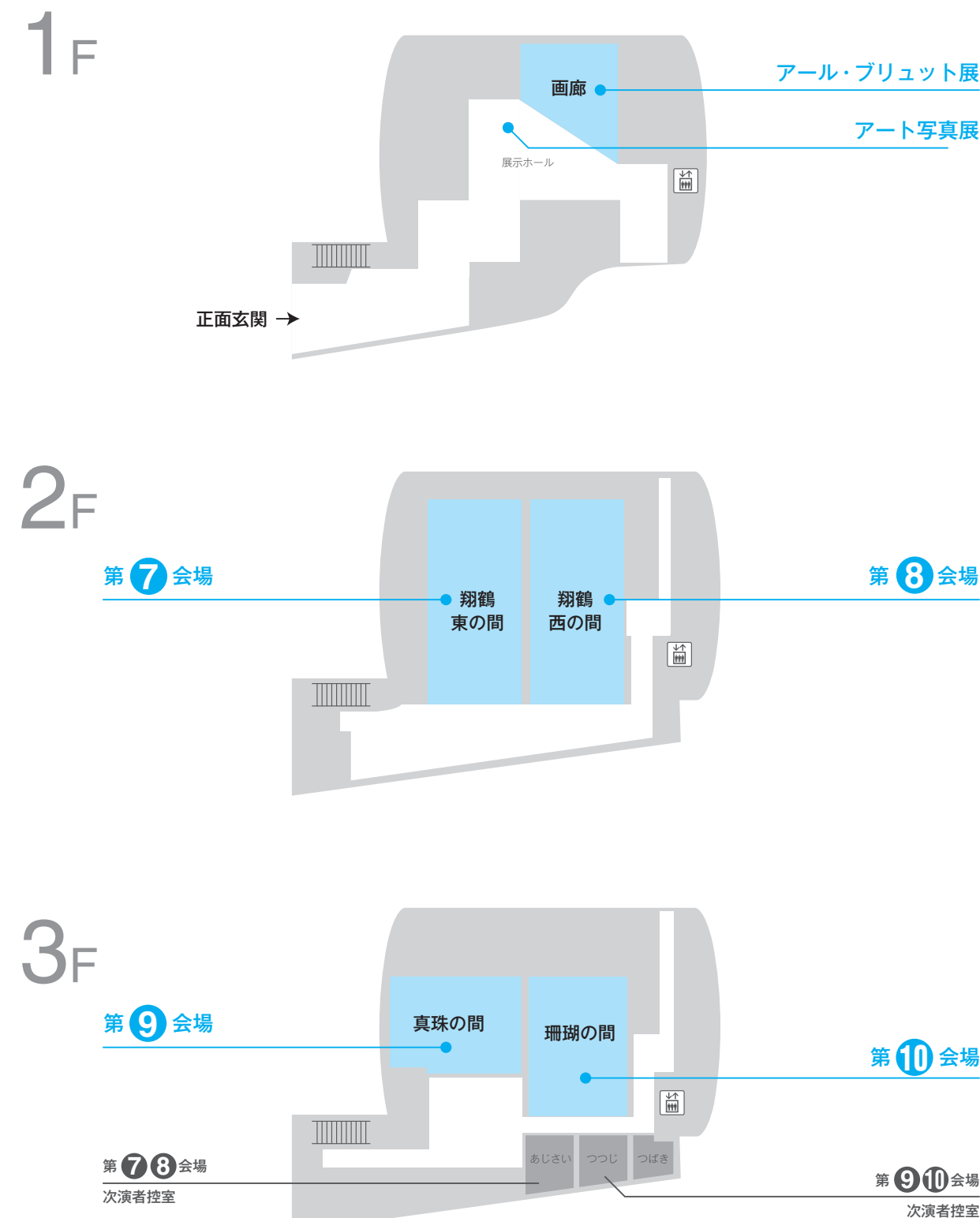
会場案内図 長崎ブリックホール

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38
TEL 095-842-2002



会場案内図 長崎新聞文化ホール アストピア

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-1
TEL 095-844-2412



基調講演

6月21日(金)9:30~11:00 第1会場(Ⓑ2F)

発言
主旨

精神科看護の継承と発展

講師 末安 民生

岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 教授／一般社団法人日本精神科看護協会 会長

精神科看護は、援助を必要とする人とつながる関係性に注意深くかかわることが基本です。私たちが接している精神障がい者は、突然に発病するのではないですし、人とのかかわりのなかで回復をめざします。そのプロセスでは身近で頼りにしたい家族との間の葛藤に悩み、相互に傷ついていることも少なくなく、頼るべき人と場所を失って苦しむこともあります。看護者が日々、出会っているのは、こうした「生きにくさ」をかかえている人たちです。そのため看護者の役割は、1対1の関係にとどまらない患者とつながる関係性のすべてにおいて、信頼関係を1つ1つ作り直していくプロセスの共有だともいえるのです。その人にかかわるすべての人との関係性や、人と集団へのかかわりに関心を向け、幾層もの社会的な関係を読み解き、身体的・精神的健康問題から回復と予防に向けた取り組みを行います。それは「人と社会との関係のありようを問う」ことでもあるのです。

したがって、患者を一方的にアセスメントするのではなく、「関係性のアセスメント」を行うことによって患者の回復を妨げていることの全てに目を向けることが必要です。日精看の吉浜文洋業務執行理事(佛教大学)は「『硬い高地』としての大学、『ぬかるんだ低地』で悪戦苦闘を強いられている実践の場というヒエラルキーを超えて『思考と行為の連続性』が重要」(『看護的思考の探求——「医療の不確実性」とプラグマティズム』ゆみる出版, 2018)だと述べています。精神科看護は一方的な患者理解ではなく、様々な関係性のなかにある患者と看護者との関係をふまえて回復の手立てを探っていくことなのです。

末安 民生 すえやす・たみお

講師略歴

1978年、東京都立松沢看護専門学校卒業。同年、東京都立松沢病院看護部勤務。1990年、衆議院議員秘書(第一秘書)。1994年、衆議院議員秘書(政策秘書)。同年、東海大学健康科学部看護学科専任講師。2001年、慶應義塾大学看護医療学部助教授。2011年、天理医療大学設立準備室を経て、天理医療大学医療学部看護学科教授。2016年4月より岩手医科大学医歯薬総合研究所看護・政策研究部門教授。2017年4月より現職。



講師 吉川 隆博

東海大学健康科学部看護学科 教授／一般社団法人日本精神科看護協会 副会長

地域包括ケアシステムの構築は、看護者にとって大きな目標になります。地域包括ケアシステムの構築を精神科医療における入院看護、外来看護、在宅看護のさらなる機能強化をめざすチャンスだと受け止め、入退院支援および地域生活支援を担う人材の育成を含め、精神科看護の専門性のさらなる向上をめざす必要があると思います。

そのためには、先輩らが看護実践で培ってきた「その人らしい生活」を支えるという個別性を尊重した実践知を踏襲し、さらに全国の精神科看護の質の向上につなげることができるように、普遍化できるものを引き出していくことが重要になってくると思います。また、先輩らの看護実践から学んだ「あきらめない看護」を私たちの誇りとして継承し、看護者自らが援助の限界を作らず、新たな援助法の創設や援助に必要な体制の開拓・確保に挑戦することも大切です。そして地域住民の、こころの健康維持・増進・回復をめざす「地域づくり」に、精神科看護者が貢献できる方策を生み出すことも重要になると思います。

吉川 隆博 きっかわ・たかひろ

講師略歴

1984年に一般財団法人河田病院へ就職し、看護補助者、准看護師、看護師として22年間の臨床経験を積む。2006年より岡山県立大学保健福祉学部看護学科講師。2008年より厚生労働省精神・障害保健課(障害保健専門官)、2011年より学校法人山陽学園山陽学園大学看護学部准教授。2013年より一般社団法人日本精神科看護協会の勤務経験を経て、2014年より東海大学健康科学部看護学科准教授。2019年4月より現職。



シンポジウム

6月23日(日)10:10~12:20 第1会場(回2F)

テーマ

精神科看護の継承と発展

シンポジスト

大塚 恒子 おおつか・つねこ

一般財団法人仁明会 精神衛生研究所
副所長
一般社団法人日本精神科看護協会
副会長



シンポジスト略歴

看護学校卒業後、(財)天理よろづ相談所病院と兵庫医科大学病院を経て、平成8年に一般財団法人仁明会病院の看護部長に就任する。2010年11月より同法人の精神衛生研究所の副所長、訪問看護ステーション所長に就き、現在は精神衛生研究所で勤務している。2005年に日本精神科看護協会の理事となり、2009年より副会長に就任して現在に至る。2006年に日本看護協会の認定看護管理者の認定を取得する。著書には「高齢者の特徴を踏まえてケースに望む」、「精神科ナースのための認知症看護」など。

西岡 由江 にしおか・よしえ

社会福祉法人ファミーユ高知 高知ハビリテールディングセンター センター長
一般社団法人日本精神科看護協会 理事

シンポジスト略歴

1986年、関西医科大学附属看護専門学校卒業、関西医科大学附属病院(小児科)勤務。1994年、医療法人三家クリニック勤務から精神看護に携わる。1998年医療法人近森会に入職。近森第二分院に配属。1999年メンタルクリニックちかもり配属。2014年社会福祉法人ファミーユ高知へ異動。障害者福祉サービスセンターウェーブ配属。2017年、日本精神科看護協会理事就任。2018年9月より現職。

山本 哲生 やまもと・てつお

社会福祉法人玉医会 障害者支援施設
たまきな荘 看護部長
一般社団法人日本精神科看護協会
副会長



シンポジスト略歴

1980年、医療法人信和会蓮澤病院(現：城ヶ崎病院)入職。1983年、大牟田医師会看護専門学校看護婦科卒業。2002年、城ヶ崎病院看護部長就任。2018年、城ヶ崎病院退職、同年より現職。2007年、日本精神科看護協会理事に就任、2013年より現職。



座長

内野 隆幸 うちの・たかゆき

医療法人緑心会 福岡保養院
看護部長
一般社団法人日本精神科看護協会
理事／教育認定委員



座長略歴

1986年、医療法人緑心会福岡保養院入職。1994年、看護専門学校緑生館卒業。2011年、日本精神科看護協会福岡県支部長。2013年より日本精神科看護協会理事。2014年より医療法人緑心会福岡保養院 副看護部長。2019年より現職。

松永 智香 まつなが・ともか

高知県厚生農業協同組合連合会
JA 高知病院 副院長兼看護部長
一般社団法人日本精神科看護協会
教育認定委員



座長略歴

高知県立高知女子大学卒業。高知県立高知女子大学大学院看護学研究科看護管理修士。高知大学医学部附属病院、近森病院勤務。近森病院第二分院看護部長、JA 高知病院看護部長、2018年3月より現職。

発言
主旨

シンポジスト 大塚 恒子

一般財団法人仁明会 精神衛生研究所 副所長／一般社団法人日本精神科看護協会 副会長

「その人らしい生活」の実現には、脳の構造・機能を踏まえたケアの標準化と、脳機能低下や神経伝達物質の不均衡に伴う「生活のしづらさ」を、患者とともに確認し対応していく個別的なケアが必要となります。これらが精神科医療や看護の可視化となるので、先輩からの継承を整理・統合し科学的な看護を明確にしなければなりません。さらに、どのような状況下でも時代が求める精神科看護を提供するには、変革を恐れず新たな看護の場を創造するマネジメント力を発揮する覚悟が求められます。

発言
主旨

シンポジスト 山本 哲生

社会福祉法人玉医会 障害者支援施設たまきな荘 看護部長／一般社団法人日本精神科看護協会 副会長

1980年から精神科看護者として勤務してきました。法律は、精神衛生法から精神保健法、精神保健福祉法と移り変わり、地域精神医療へと移行してきました。いまでは地域包括ケアシステムの構築へと変化しています。そのようななかで、患者さんやその家族、職場のスタッフと出会い、さらに日精看の会員となり、多くの出会いと学びの場を広げることができました。精神看護者として、看護の実践と医療チームとの連携のなかで学んだことや気づきを、その人らしい生活をめざした自立支援に活かせるように話題提供し、みなさんと精神科看護をより深く探究していきたいと思います。

発言
主旨

シンポジスト 西岡 由江

社会福祉法人ファミーユ高知 高知ハビリテールディングセンター センター長／一般社団法人日本精神科看護協会 理事

自分の精神科看護の経験のなかで継承してきたものとは、なかなか形に表せない「精神科看護の魅力」ではないかと思っています。魅力とは、看護を通じて自分を知り、自分らしさを受け入れてもらう体験、互いの強みを発揮し創造し合う個別の看護、ともに取り組むことから生まれる絆、そしてなにより、利用者さんの回復にかかわらせていただける喜びを体験すること。しかし、これは抽象的で、主観的なものゆえに継承が難しい。この見えにくい精神科看護をこれからどう発展させていくのか、ハンディキャップを抱えた人たちとともに働く立場から、「つながる、つなげる看護」の視点で話題提供させていただきたいと思っています。

特別講演

6月21日(金)13:10~14:10 第1会場(国2F)

発言
主旨

夢持ち続け日々精進

講師 高田 明

株式会社A and Live(エーアンドライブ)代表取締役／株式会社ジャパネットたかた 創業者

常に「今を生きて」きた高田自身の歴史を振り返りながら、長年にわたりラジオやテレビ通販のMCを務める中で感じた「伝えることの大切さ」などについてもお話させていただきます。

高田 明 たかた・あきら

講師略歴

1948年、長崎県生まれ。大阪経済大学卒業後、機械製造メーカーへ就職し通訳として海外駐在を経験。1974年に父親が経営するカメラ店へ入社。1986年に「株式会社たかた」として分離独立。1999年に現社名へ変更。1990年にラジオでショッピングを行ったのを機に全国へネットワークを広げ、その後テレビ、チラシ・カタログなどの紙媒体、インターネットや携帯サイトなどでの通販事業を展開。2012年には、新たな拠点として東京にオフィスとテレビスタジオを開設する。2015年1月に「株式会社ジャパネットたかた」の代表を退任し、同時に「株式会社A and Live」を設立。2017年4月、プロサッカークラブ「株式会社V・ファーレン長崎」の代表取締役社長に就任。



企画
主旨

精神科看護は、援助を必要とする人とつながる関係性に注意深くかかわることが基本です。

それは、「人と社会との関係のありよう」を問うことでもあります。

今般、長崎大会において長崎県平戸市に生まれ、佐世保市で「(株) ジャパネットたかた」を創業された高田明氏を招聘しました。高田氏は、ご著書の中で、毎日を真剣に向き合う大切さから、伝えることの意味、自分を知り相手を思い、理解するプロセスについて語っています。あらためて、私たちの日々の看護を振り返る機会として、特別講演を企画しました。

教育セミナー

6月21日(金)14:20~15:20 第1会場(国2F)

発言
主旨

東日本大震災から8年目、これからの課題

講師 大川 貴子

福島県立医科大学看護学部 准教授

福島県相双地区では、東日本大震災および原発事故より8年が経過した今、避難指示の解除が徐々に進んでいるが、故郷に戻る人は多くはない。精神科医療に関しては、震災前には、約900床あった精神病床が、60床となっており、精神障がい者が地域で暮らせるような体制を整えていくことが、重要課題となっている。

そのような地域において、「NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」は、2011年11月に発足し、現在、相馬広域こころのケアセンターなごみ、訪問看護ステーションなごみ、地域活動支援センター／相談支援事業所なごみ CLUBとして活動している。ここでの活動を通し、これからの課題について、以下の点について述べていきたいと思う。

1. 住民の健康を保つという視点からのアプローチ

人と人とのつながりを再認識できるような場を作り、楽しさややりがいを感じられることに出会えるような働きかけが、今後必要である。

2. 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」

を意識した展開

アウトリーチ型の支援は、被災地のみならず、日本中の各地域において必要なものであり、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の枠組みの中で、位置づけられていく必要がある。

3. 多職種と活動をともしめる中で求められる看護職の自律性

地域での活動の多くは、常に他の職種と組んで仕事をする中で、“看護が……”と強く主張するのではなく、支援のあり方に看護らしさが現われ出ることが求められている。

大川 貴子 おおかわ・たかこ

講師略歴

1988年、聖路加看護大学(現在:聖路加国際大学)卒業。看護師、保健師の免許取得。虎の門病院に勤務の後、1991年、聖路加看護大学大学院修士課程入学。修了後1993年より兵庫県立看護大学(現在:兵庫県立大学)精神看護学助手。在職中、1995年に阪神淡路大震災を経験し、保健所や避難所での支援を行う。1996年、聖路加看護大学大学院博士課程へ入学(2004年満期退学)。在学中、横浜市立医学部付属浦舟病院にて、リエゾンナースとして非常勤を務める。1999年より福島県立医科大学看護学部精神看護学講師として就任。2005年より准教授。2012年よりNPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会理事長を兼務。現在、ふくしま心のケアセンターの顧問も兼任している。



発言
主旨

組織として取り組む行動制限最小化

講師 三宅 美智

岩手医科大学看護学部 講師

厚生労働省の調査では、隔離者数と身体的拘束者数は増加している現状にある。最新の平成29年の630調査では、隔離が12,817人(4.5%)、身体的拘束が12,528人(4.4%)と発表された。日本精神科看護協会の学術集会の看護研究発表でも隔離・身体的拘束に関する取り組みは数多く発表され、臨床では

行動制限最小化への努力が見てとれる。また身体的拘束に関しては、精神病床のみならず一般病床においても減らすための努力が報告されるようになった。それは認知症ケア加算の算定要件に「身体的拘束を実施した日は、所定点数の **100** 分の **60** に相当する点数により算定」とあり、認知症患者に対するケアの見直しがなされた影響も大きい。しかし、その動きは認知症患者だけではなく、一般病床全体に広がっている。

医療全体において、このような動きが認められるなか、精神医療の臨床現場では行動制限最小化への努力がなされているにもかかわらず、数は増加している現状をどのように考えればよいのか。また平成 **29** 年の **630** 調査から隔離や身体的拘束の対象にはどのような傾向があるのかを踏まえ、これからの精神医療に求められるものは何であるのか、特に長期化している場合に、組織として行動制限最小化にどのように取り組むのかについて話し、参加者のご意見も伺いたい。それにより問題の共有や今後の対策への示唆を得たいと考えている。

三宅 美智 みやけ・みち

講師略歴

2000年、東海大学健康科学部看護学科卒業、社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院に入職。2002年、同病院を退職後、公益財団法人井之頭病院に入職。2007年、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修了(看護学修士)。2010年、東海大学健康科学部看護学科助教、2012年、天理医療大学医療学部看護学科助教。2014年より現職。



6月22日(土)13:40~14:40 第**1**会場(回2F)

発言
主旨

組織のストレスとコンサルテーション

講師 **武井 麻子**

Office-Asako コンサルタント／首都大学東京 特任教授／日本赤十字看護大学 名誉教授

対人援助の職種の中でも、看護は特殊な感情労働といわれている。すなわち、営業スマイルではなく、心からの微笑みや優しさが求められ、看護師自身もそうでなければならないと信じているところがある。しかし、経営効率が求められる現在の医療の場では、必要な医療をミスなくスムーズに提供することが最大の目標であり、患者の感情はおろか、自分の感情さえも気にかけている余裕はない。

しかし、病み傷ついた人に間近に接するケア提供者には、目には見えないストレスがかかっている。共感ストレスといわれるものである。しかも患者相手の対人ストレスに加えて、医療や福祉のヒューマンサービスの組織そのものが心理社会的ストレスを生み出していることはほとんど認識されておらず、公式の場で働き手の感情の問題がとり扱われることもほとんどない。その結果、身体的にも心理的にも疲弊し、職場の人間関係も悪化するなかで、多くの働き手が辞めていくといった事態が起こっている。

このセミナーでは、感情労働という視点と医療福祉にかかわる組織のダイナミクスについて考えていきたい。

武井 麻子 たけい・あさこ

講師略歴

東京大学医学系大学院にて精神衛生学を専攻。博士(保健学)を取得。千葉県の民間精神科病院、社会福祉法人ロザリオの聖母会海上寮療養所に看護師およびソーシャルワーカーとして12年間勤務。1988年、英国ケンブリッジフルボーン病院にて6か月間看護師として研修。千葉県立衛生短期大学助教授を経て、2002年より日本赤十字看護大学に勤務。現在、日本赤十字看護大学名誉教授、首都大学東京特任教授、Office-Asako主催。



6月23日(日)9:00~10:00 第**2**会場(回3F)

発言
主旨

リフレクティング・プロセスを看護に活かす

講師 **西池 絵衣子**

兵庫県立大学看護学部生涯広域健康看護講座 講師

近年、わが国で関心を集めているフィンランドのオープンダイアログ。地域精神科医療の **1** つのあり方を示してくれるこの重要な方法の中心的手法として用いられているのがリフレクティング・プロセスです。リフレクティング・プロセスは、ノルウェーの家族療法家である精神科医のトム・アンデルセンによって提唱された関係性を重視したコミュニケーションの方法です。この方法では、医療者とその提供を受ける当事者とその家族が互いの会話に耳を傾けられるようなかわりをします。まず、誰に何が起こっているのかを共有できるように話し合います。例えば、家族が子どものことを心配していて、子どもに誰かの助けが必要だと判断しているのにうまく伝わらず、本人の反発を強めているとします。そこでリフレクティング・プロセスを用いて、医療者が感じているまを医療者同士の対話として家族を含め、ご本人にも話を聞いてもらうのです。実際には互いのことを意外にわかりあっているのですが、今はそれを言葉にして伝え合うという機会が失われているということがわかってきます。「病院に行こう」と押しつけていたように感じられた親が実は、「こんなに心配してしてくれたのか」と実感でき、感謝の気持ちをもつことができます。

患者－看護師関係における「関係性の限界」をリフレクティング・プロセスによるケアの展開方法を用いることによって変えていけることを、一緒に考える機会にしたいと思います。

西池 絵衣子 にしいけ・えいこ

講師略歴

2002年兵庫県立看護大学(現兵庫県立大学)を卒業し、一般財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院に入職。2010年慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科看護学専修(CNSコース)修了。近大姫路大学、天理医療大学、慶應義塾大学を経て2019年より現職。病院臨床だけではなくグループホームスタッフのコンサルテーションなど地域支援の場でも活動している。精神看護専門看護師。



モーニングセッション・めざまし討論会

これからの時代の精神科医療を語り合う —これまでの記憶, 20年後からの視点

進行 **末安 民生**

岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 教授／一般社団法人日本精神科看護協会 会長

進行 **吉浜 文洋**

佛教大学保健医療技術学部看護学科 教授／一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事

昨年の基調講演, 吉浜業務執行理事の「精神科看護の創造と継承」を受けて, 本学術集会では末安会長と吉川副会長の2人が登壇し「精神科の継承と発展」と題して精神科看護のあり方を示す。精神科看護の何を継承し, どう発展させるかを考えるセッションである。

末安 民生 すえやす・たみお

進行略歴

1978年, 東京都立松沢看護専門学校卒業。同年, 東京都立松沢病院看護部勤務。1990年, 衆議院議員秘書(第一秘書)。1994年, 衆議院議員秘書(政策秘書)。同年, 東海大学健康科学部看護学科専任講師。2001年, 慶應義塾大学看護医療学部助教授。2011年, 天理医療大学設立準備室を経て, 天理医療大学医療学部看護学科教授。2016年4月より岩手医科大学医歯薬総合研究所看護・政策研究部門教授。2017年4月より現職。



吉浜 文洋 よしはま・ふみひろ

進行略歴

1973年, 琉球大学保健学部保健学科卒業, 玉木病院で看護助手として勤務。その後, 東京都立松沢看護専門学校を卒業。医療法人和泉会いずみ病院など主に民間精神科病院に約20年勤務。2000年, 静岡県立大学短期大学部助教授, 2006年, 国立富山大学医学部看護学科助教授。2008年, 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科教授。2013年より現職。



企画
主旨

地域移行機能強化病棟から見える20年後の精神科病院 —特定医療法人杏仁会神野病院の取り組み

6月22日(土)7:30~8:50 第2会場(国3F)

1

ベテランの方々には, 思い起こしていただきたい。20年前の精神科看護を, そのとき自分がどこにいて, 20年後をどう想定していたかを。若い看護師には, 20年後の精神科看護を思い描いてほしい。精神科看護が病院医療中心だった時代から, 地域生活の中の医療・看護へと移り変わっていく時代である。精神科看護の移行期とっていいだろう。

この精神医療状況を体現した地域移行機能強化病棟の退院支援の実践報告を受けて, 次の時代の精神科看護へ思いをはせるセッションにしたいと考えている。20年後の精神科病院。そこから今を見ると何が見えてくるか。



指定討論者 **小田部 智子** こたべ・ともこ
特定医療法人杏仁会神野病院 看護部長



指定討論者 **高村 美保** たかむら・みほ
同 病棟師長



指定討論者 **緒方 和久** おがた・かずひさ
同 病棟精神保健福祉士

企画
主旨

これまでの20年とこれからの20年を通して 私がしていきたい看護を語り合う —精神科看護の現実と展望

6月23日(日)7:30~8:50 第2会場(国3F)

2

精神科病院の医療・看護に限界を感じつつ, 病院を拠点とした精神科看護を模索している方, 病院を出て地域で活動しはじめ充実した日々を送っている方, まだまだ病院の中でやらなければならないことがあるはずだという思いをもっている方……さまざまな日常の思いを語ってもらいたい。

地域生活を支える医療・看護の時代に移行しつつある今, これまでの病院医療で培った看護の何を継承し, どう発展させるかを考えるのか, それとも全く新しい発想が必要とされているのか。これからの精神科看護の構想が飛び交う創造的なセッション。近未来から現在をみる視点をもつことで, 頭をゆるめ議論が活性化する。そのような場になることを期待したい。



指定討論者 **高田 久美** たかた・くみ
南部町国民健康保険西伯病院
地域連携室長／精神科認定看護師



指定討論者 **松本 和彦** まつもと・かずひこ
プラスワン訪問看護ステーション
統括所長／精神科認定看護師



指定討論者 **大城 盛博** おおしろ・もりひろ
医療法人正清会久田病院
看護部長

特別企画

6月21日(金)14:20~15:40 第2会場(国3F)

精神科看護師に特定行為は必要か？ —変化する社会に対応するために—

発言
主旨

演者 厚生労働省医政局 看護課

演者 栗原 サキ子

社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院 副院長兼看護部長

演者 大塚 恒子

一般財団法人仁明会精神衛生研究所 副所長／一般社団法人日本精神科看護協会 副会長

座長 松永 智香

高知県厚生農業協同組合連合会 JA 高知病院 副院長兼看護部長／一般社団法人日本精神科看護協会 教育認定委員

2015年10月1日から、「特定行為に係る看護師の研修制度」(以下、特定行為研修制度)が施行され、その指定研修機関は36都道府県87機関(2018年8月)となり、研修を修了した看護師は1006名(2018年3月)となった。厚生労働省は2025年に向けて、さらなる在宅医療などの推進を図っていくため、医師または歯科医師の判断を待たずに手順書により一定の診療の補助を行う看護師を養成し、確保していく必要があるとしている。そこで、その行為を特定し、今後の在宅医療などを支えていく看護師を計画的に養成していくことを目的に特定行為研修制度が創設された。当初より、当協会においても特定行為研修制度について、どのように対応していくべきかという検討が行われてきた。

また、2016年より、社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院において、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」についての研修が開講されており、すでに精神科領域で従事する看護師が特定行為研修を修了し、活動を開始している。本企画では、厚生労働省、当協会のプロジェクト委員、特定行為研修を修了した精神科看護師をマネジメントする看護管理者の立場から意見をいただき、考える場としたい。

大塚 恒子 おおつが・つねこ

演者略歴

看護学校卒業後、(財)天理よろづ相談所病院と兵庫医科大学病院を経て、平成8年に一般財団法人仁明会病院の看護部長に就任する。2010年11月より同法人の精神衛生研究所の副所長、訪問看護ステーション所長に就き、現在は精神衛生研究所で勤務している。

松永 智香 まつなが・ともか

座長略歴

高知県立高知女子大学卒業。高知県立高知女子大学大学院看護学研究科看護管理修士。高知大学医学部附属病院、近森病院勤務。近森病院第二分院看護部長、JA高知病院看護部長、2018年3月より現職。

栗原 サキ子 くりはら・さきこ

演者略歴

看護学校卒業後、稲城市立病院勤務、2008年、看護部長に就任。2012年、国際医療福祉大学大学院看護学修士。2015年、社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院看護部長。2016年、看護師特定行為研修センター開設。2018年より現職。千葉県看護協会理事。2000年よりボランティアチームを構成し、地域での保健活動を実施している。

厚生労働省医政局 看護課

演者紹介

特定行為に係る看護師の研修制度の概要や現状について、報告をいただく予定。

公開講座

6月22日(土)14:50~17:00 第1会場(国2F)

お父さんの気持ちを支える！ 児童虐待予防支援ツール 『パパカード』を活用しよう！

発言
主旨

座長 草地 仁史

一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事

講師 西池 絵衣子

兵庫県立大学看護学部生涯広域健康看護講座 講師

フィンランドでは、どの自治体にも「ネウボラ(neuvola)」という子育て支援を行う施設があり、妊娠期から就学の時期まで切れ目のないサポートを提供しています。このサポートは子どもの成長はもちろんのこと、父親、母親、兄弟など家族全体の心身の健康を目的としています。最近では親の精神的支援、父親の育児推進がネウボラの重要な役割となっています。日本も同様に子育て世代包括支援センターの法定化などを図り、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援などを通じて、様々なサポートを行っています。特に近年は、子育てをしているお父さんへの支援について関心が高まっています。

今回ご紹介する支援ツールは、元々フィンランドの母子支援を専門とする団体が、虐待加害者となる男性の「外傷体験」からの回復に注目し、開発した支援ツールです。その日本版を日精看が作成し「パパカード」を完成させました。この支援ツールは、すべての人の健康を大切にした「優しさが溢れるツール」です。この機会にぜひパパカードの活用方法を知って、皆様の支援に役立てていただきたいと思います。



草地 仁史 くさち・ひとし

座長略歴

2004年に精神科認定看護師を取得。2007年より病院の看護師と専門学校スクールカウンセラーを兼務。2011年より山口大学大学院医学系研究科の講師として赴任し、同時に宇部市障害福祉課に在籍し、保健師指導と訪問看護活動に携わる。2014年より山陽学園大学大学院看護学研究科の准教授として赴任し、研究・教育に携わりながら、病院の看護コンサルト業務も担っていた。2017年より現職。



西池 絵衣子 にしいけ・えいこ

講師略歴

2002年兵庫県立看護大学(現兵庫県立大学)を卒業し、一般財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院に入職。2010年慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科看護学専修(CNSコース)修了。近大姫路大学、天理医療大学、慶應義塾大学を経て2019年より現職。病院臨床だけではなくグループホームスタッフのコンサルテーションなど地域支援の場でも活動している。精神看護専門看護師。



行政報告

6月21日(金)15:30~16:30 第①会場(㊦2F)

発言
主旨

精神保健医療福祉の動向について

報告者 **厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課**

平成29年2月8日に「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」報告書が公表され、『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』を新たな政策理念として、平成30年度から全国の自治体で政策の推進に向けた取り組みが実施されている。

具体的には、第5期「障害福祉計画」の基本指針の見直し、第7次「医療計画」における精神疾患の医療体制の構築に係る指針の見直しが行われ、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業として、①保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置、②精神障がい者の住まいの確保支援に係る事業、③ピアサポートの活用に係る事業、④入院中の精神障がい者の退院促進に係る事業、⑤精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築状況の評価に係る事業、⑥精神障がい者の地域移行関係職員に対する研修に係る事業、⑦措置入院者の退院後の医療などの継続支援に係る事業、⑧その他（上記②～⑦以外で精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に資する事業）が、全国で展開されている。

それらの実施状況などを含めて、精神科看護者が知っておくべき精神保健医療福祉に関する最新情報を報告していただく。

管理者セミナー

6月22日(土)16:00~17:00 第②会場(㊦3F)

発言
主旨

管理者だって言いたいことは山ほどあるんだ！！

演者 **岡本眞知子** 元 医療法人治久会もみのき病院 看護部長
中庭良枝 医療法人財団青山会福井記念病院 看護部長

進行 **仲野 栄**
一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事

平成26年度の広島大会から始まった看護管理者セミナー。たくさんの管理者の皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。

第1回セミナーから講師を務めていただいた岡本眞知子さんの「げらげら笑えて腑に落ちる」看護管理の講演は、セミナーの名物になりました。そして、もう1つの名物は会場で繰り上げられる本音トークでした。毎回、講師から出てくる「ここだけの話」や、参加者の皆さんの発言に「そうだ！そうだ！」「私も言いたい！」と盛り上がりました。そんなセミナーも、今回が最終回です。

今回のセミナーの主役は、看護管理者の皆さんです。日頃は、「管理者として行うべきこと、言うべきこと」を意識して勤務されている皆さんが、自由に、本音で、言いたいことを言っていただく場をつくります。看護管理の達人であるお2人にも参加していただき、好きなことをお話ししましょう。

スッキリしたい管理者の皆さん、会場でお待ちしています。

支部企画

6月22日(土)14:50~15:50 第②会場(㊦3F)

発言
主旨

リソースナースの組織的取り組み

登壇者 **岩見 悦子**
長崎県病院企業団長崎県精神医療センター 副看護部長／精神科認定看護師

登壇者 **中本 健一郎** 同 副看護部長／精神科認定看護師
登壇者 **後藤 悌嘉** 同 看護師／精神科認定看護師

長崎県精神医療センターは、精神科救急病棟、思春期病棟、包括治療病棟、医療観察法病棟の4病棟と外来の5単位からなる139床の病院です。看護職員数111名中、11名の精神科認定看護師と1名の精神看護専門看護師が勤務しています。この12名はリソースナースとして、4病棟と看護部、地域連携室、外来の全部署に配置されています。平成23年度より組織に貢献することを目的に看護管理者を含めたリソースナース委員会を立ち上げ、組織横断的に相談、指導を行ってきました。私たちリソースナースは病院組織から月に1回の活動の機会が保障され、スタッフの役割モデルとして看護実践を行うとともに、院内外における研修の講師、地域や学校での講演など精神科看護の質向上に向けて活動しています。今回は、これまでの8年間の活動の経過と、組織の中において看護管理者とリソースナースが共同して行ってきた活動の実績についてご報告いたします。精神科認定看護師自身はもちろん、今後精神科認定看護師を効果的に活用したいと考えておられる管理者の皆様にも、ぜひご参加いただきたいと考えております。

長崎県病院企業団長崎県精神医療センター リソースナース委員会メンバー

山中 利文	看護部長／精神科認定看護師・認定看護管理者	中濱 裕二	主任看護師／精神科認定看護師
岩見 悦子	副看護部長／精神科認定看護師	久保田 禅	主任看護師／精神科認定看護師
岸川 孝	看護師長／精神科認定看護師	後藤 悌嘉	看護師／精神科認定看護師
松尾 洋一	看護師長／精神科認定看護師	島田 祐二	看護師／精神科認定看護師
宮崎 大輔	副看護部長／精神科認定看護師	浜口 二三恵	看護師／精神科認定看護師
中本 健一郎	副看護部長／精神科認定看護師	村島 正俊	副看護部長／精神看護専門看護師

映画上映

6月22日(土)10:10~11:30 第①会場(㊦2F)

オキナワへいこう

大阪の浅香山病院で長期入院する人たちが、有志の看護師たちと沖縄への旅行計画を立てる。しかし、そこには精神科ならではの壁が立ちはだかる。旅行後の人生が変わった人、変わらない人の病棟に一瞬吹いた風が巻き起こす人生の変化。笑いあり涙ありの長編ドキュメンタリー作品です。

*上映後に舞台挨拶が行われます。



監督 **大西 暢夫** おおにし・のぶお

1968年、東京都生まれ。岐阜県揖斐郡池田町で育つ。東京総合写真専門学校卒業後、写真家・映画監督の本橋成一氏に師事。2001年から精神科病院に入院する人々の姿を『精神科看護』のグラビアを通し撮影を始める。現在もダムに沈む村に暮らす人々や職人の仕事など、長期にわたる取材を続けている

ランチョンセミナー

大塚製薬株式会社

6月21日(金)12:00~13:00 第2会場(📍3F)

1

疾病構造の変化に伴う精神科リハビリテーション —そんな精神科医療環境におけるアリピプラゾールLAIの役割

発言
主旨

講師 **西脇 健三郎**

医療法人志仁会西脇病院 理事長・院長

座長 **尾上 英次郎**

医療法人清潮会三和中央病院 看護部長

今日、出生減、少子化の時代の中、古今東西発症がおおむね **100** 人に **1** 人とされる統合失調症患者。発病数は減少しているはずである。にもかかわらず、主に幻覚妄想に支配され病識欠如の状態に陥った統合失調症患者の医療と保護を目的とした非自発的入院（主に医療保護入院）は、年々増加の一途にある。これは、統合失調症患者が再発を繰り返すことが一因であると考えられる。

再発の主な原因の一つにアドヒアランス不良がある。アドヒアランスを保つ工夫の一つとして持続性注射剤（**LAI**）がある。

アリピプラゾール **LAI** は、再発抑止効果が認められている。そこで、その有効性について症例を通して紹介したい。

さらに、アリピプラゾール **LAI** は再発抑止効果に加えて、**QOL** や社会機能も改善するとされていることから、そんな統合失調症患者のリハビリと自立支援へのわれわれ精神医療従事者の取り組み方について触れてみたい。とくに「感情労働」に関しての解説を加えたい。

ニプロ株式会社

6月22日(土)12:30~13:30 第1会場(📍2F)

2

質が高く安全な医療の提供は医療者の責務 —手順の順守とレジリエンスな対応を

発言
主旨

講師 **嶋森 好子**

岩手医科大学看護学部 学部長／教授

座長 **末安 民生**

岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 教授

医療の質・安全学会ネットワーク会議は、現場の医療安全管理者が集まって、医療安全確保の課題を検討する会議である。年 **3** 回会議をもち、ここ数年は、安全確保の基本となる手順書を作成してきた。現在はその手順書を、医療の質・安全学会ホームページから、会員がダウンロードできるようになっている。

何事か業務を行う上で、その業務のプロセスを明確にして、質や安全を確保することは極めて重要で、あたり前のことである。しかし、医療においては、個々の患者に応じた医療の提供なので、標準化は難しく手順の作成は無理だといわれていた。しかし、**1999** 年の重大事故をきっかけに、工学分野や心理学分野など医療以外の分野の人々が参加する学会活動などを通じて、業務プロセスの明確化は、あたり前のこととなった。クリニカルパスを用いた医療の提供も、まさにその **1** 例である。

2015 年に、エリック・ホルナゲルは、その著書「**Safety I & safety II**」¹⁾ で、事故の事例ばかりに

注目する（**Safety I**）のではなく、安全が保障された行為（**Safety II**）に注目することの重要性を述べている。そのためには、決められた手順の順守ばかりにとらわれず、柔軟に対応する力（レジリエンス）の育成も必要だと述べている。

これからの医療の質と安全確保のために、手順の順守とレジリエンスな対応能力の育成は、いずれも、大きな課題である。現場でいかに取り組むべきか、参加の皆さんと考えていきたい。

参考文献: 1) エリック・ホルナゲル著、北村正晴・小松原明哲監訳、**Safety I & Safety II**、海文堂、2015

株式会社医学書院

6月22日(土)12:30~13:30 第2会場(📍3F)

3

在宅で出会う「横綱級ケース」に くじけないための技と型, 教えます

発言
主旨

講師 **小瀬古 伸幸**

訪問看護ステーションみのり 統括所長／精神科認定看護師

在宅では様々な利用者に出会います。ここで「横綱級ケース」と表現しているのは、重症度ではなく、支援する側が支援不能な感覚に陥るケースをさします。例えば、「一般的な話が通じない」「圧迫感を与えてくる」「要求が強い」「要求がわかりにくい」といったケースであり、それに対してこちら側は「恐怖や怒り、嫌悪を感じる」「何を支援しているのかわからなくなってくる」「達成感がない」などの感情を抱きます。

しかし、当の利用者の話を聴いてみると、支援者に大変な思いをさせたいと思っている人はいません。どちらかという、どうにもならない状況を打破しようと、自ら試行錯誤を繰り返している人の方が多いのです。それでは、なぜ支援者はその試行錯誤を「難しい人」「超ド級」「横綱級」と感じるのでしょうか。

試行錯誤を繰り返している方はエネルギー水準が高い方が多いのです。ですので、自分の「なんとかしたい」という思いや伝えたいことを支援者がしっかりキャッチしないと、「なんでわからないんだ!」と攻撃性を前面に出してきます。そうすると支援者は、「私たちがなんとかしなければいけない」という考えが強くなり、本人の訴えに振り回されてしまいます。最終的にはどうやってかわればいいのかからなくなり、行き詰まります。

このランチョンセミナーでは、そんな横綱級ケースにがつぷり四つに取り組んできた私が見出した、「言葉をキャッチする」という技と型を伝授します。言葉をキャッチしていない時というのは **5** つのパターンがあります。そしてこのパターンに陥ると利用者を「横綱級」にしてしまいます。「この技は使えそうだ」と少しでも感じられたらぜひ実践してみてください。自分なりのやり方（技のパターン、組み合わせ）が見え、利用者のリハビリはもとより、支援者として日々楽しく仕事ができるようになるはずです。

アール・ブリュット展&アート写真展

6月21日(金)12:30~
23日(日)12:30まで
画廊(☎1F)

テーマ 表現し続ける2人の兄弟

案内者 **アラオ 多枝子**

特定非営利活動法人はれたりくもったり アートディレクター

なぜ人はものをつくり、絵を描くのでしょうか。それを自分にも社会にも問わず、ただただつくり続ける人たちがいます。人には、ものをつくる衝動に駆られるという現実があります。それは決して個人的なものにおさまるものではなく、人間だからこそその普遍性を携えています。

今回は2人のご兄弟の、その全く違うイメージの世界を展示します。お2人とも非常に細く、細かな線で大きな紙面に描いており、それぞれのイメージには果てがありません。

＊「わたしが見つけた！アート写真コンテスト」受賞作品もあわせて展示しています。

アラオ 多枝子 あらお・たえこ

特定非営利活動法人はれたりくもったり アートディレクター



メッセージ

アール・ブリュットは、美術や福祉といったあらゆる垣根をなくし、私たちに「人間」という1つのつながりがあることを認識させてくれます。作品だけではなく作家それぞれの背景も含め、ぜひ彼ら独自の世界に会いに来てください。

認定相談ブース

6月21日(金)~23日(日)
学会カフェ

精神科認定看護師の会

精神科認定看護師の会は、資質の向上と会員相互の情報交換・親睦を図ることを目的とし、発足してから20年が経過しました。諸先輩方のご尽力で、会もここまで成長することができました。今後、私たちは諸先輩方の想いを受け継ぎ、「1人は皆のために、皆は1人のために」という輪を大切にしながら、さらに成長を続けたいと思います。

私たちは、さらなる成長を求めて、私たち精神科認定看護師だからできることを明らかにするための検討を始めました。

今回の認定ブースでも、精神科認定看護師の役割である「実践」「相談」「指導」「自己研鑽」に基づいた活動ができるように、また、これから精神科認定看護師をめざしたいとお考えの方に資格取得までの体験やアドバイスをお伝えいたします。ぜひ、お立ち寄りください。